

talk・talk・talk 第9回

インバル・ピント・カンパニー 『Hydra ヒュドラ』



見たことのない光を探して

ゲスト：インバル・ピント&アヴシャロム・ポラック ナビゲーター：佐藤まいみ（財団法人埼玉県芸術文化振興財団プロデューサー）

シュールで幻想的な作風で知られるインバル・ピントとアヴシャロム・ポラックが、彩の国さいたま芸術劇場との共同製作で挑んだ新作『Hydra ヒュドラ』。ワールドプルミエの興奮に包まれた終演後の舞台上に登場したピントとポラック、2人が創り出すファンタジックで謎めいた世界の秘密に迫った。

佐藤 『ヒュドラ』の世界初演、皆さまいかがでしたでしょうか。『ヒュドラ』というタイトル自体が既にミステリアスですね。

ポラック タイトルというのはいつも決めるのが大変で、なかなか決まりません。新しいものを創る時には何もないところから始めたいですし、（タイトルに）しがみついてもいけないですから。今回は〈背骨〉のない人、〈背骨〉を探す人という作品のイメージから、原始的な背骨のない生き物であるヒュドラを思いつきました。本当に偶然、ほとんどハプニングのように思いついたんですけど。おもしろい発音だし、いろいろな意味をもつ言葉だし。そうしたら、創作が進行していった時に、今までに出し合っ

てきた様々なイメージとのつながりが見えてきて、更にアイデアがそこからどんどん湧き出てきて、もはやただの怪物の名前ではなくなくなってしまっていたのです。そうしてタイトルと作品とが一体になっていきました。この作品を観られた観客の皆さんにも、（「ヒュドラ」という言葉から）また新たなイメージのつながりを見つけていただけたらいいですね。

佐藤 今回は森山開次さん、大植真太郎さんという日本人ダンサーに特別出演していただきました。これまでご自身のカンパニーに客演ダンサーを迎えたことはないと聞いていたのですが、インバルさん、いかがでしたか。